



いた～い☹️ 診立て違い

5月の連休中に左ひざが痛くなり、湿布をしたりしてごまかしていました。10数年前に水が溜まってしまい、注射で抜いたことがありましたので、休み明けに近所の整形外科に行きました。「水は溜まってないみたいですから、電気治療して飲み薬と湿布を出します」ということでした。

2日たっても痛みが取れずに歩くのもおっくうになってきたので、商店街の別な整形外科に行きました。診て触って直ぐに「水が溜まっているので抜きますね」……40ccも取られてしまいました。おまけに「ヒアルロン酸も5回に分けて入れますから、1週間に1回来てください」その注射の痛いこと痛くないこと、さすがの私も、針を刺されてから抜かれるまで泣きそうになっていました。先週で5回の治療が終わりましたが、「2週間後に来てください」と言われてしまいました。また痛い目に合うのかと思うと……。今では痛みも取れて歩くのも楽なんです、正座はもうちょっと…。

2人のお医者さん、まったく診立てが違いました。どうしてこうなるのでしょうか。いちばん痛い目にあったのは私ですからね。

診立て違いとはちょっと違いますが、利用者さんの様子を見る時に、それぞれの職員がそれぞれの理解の仕方をしていたら、どうなってしまうのでしょうか。いちばん困るのは利用者さんです。ときには、家族の方と職員とで利用者さんの見方が少しずれることがあります。それは、家庭での利用者さんと学苑での利用者さんとは様子が違うということであって、お互いの理解の違いではないと思っています。以前にもお話したことがあったかと思いますが、私たちだって家の外と内とでは違いますから、当然、利用者さんも同じことです。

それぞれの様子が利用者さん本人の様子ですから、お互いに腹を割って話し合い、連携していくしかないと思っています。それが利用者さんの夢を実現することにつながっていくのではないのでしょうか。



花心での体験作業 お疲れ様

先日、さくらグループの利用者さんが花心での作業体験をされました。受注作業の紙袋製作で、午前中に2時間30分、午後1時間ちょっとの作業でした。作業技術としては問題ないようでしたが、長時間作業を続けるということに課題があったようです。



おふたりにとっては初めてのことで仕方がないのかもしれませんが、花心のメンバーはこの2年間続けてきていますからごく当たり前に過ごしていますが、その集中力や持続力というのは素晴らしいということではないのでしょうか。

生活介護の方でも、本人の気持ちを大事にしながら経験を積んでいけば、できるようになることだと思っています。他にも体験をしてみたいという方がおられましたら、遠慮なく申し出てみてください。

現場実習 新たに2校から

先週で、附属特別支援学校高等部3年生と井芹中学校3年生の2人の実習が終わりました。2人とも日に日に上手になり、花心の貴重な戦力となりつつありました。また機会があったら利用していただきたいと思っています。

今日から松橋西支援学校高等部2年生1名、18日から熊本支援学校高等部2年生2名の実習が始まります。熊本支援の1人の方はさくらグループでの4日間の実習ですが、他の2人は花心での2週間の実習となっています。初めての実習で緊張されるかもしれませんが、みなさんでやさしく支えていただければと思っています。